

超多糸量系蚕品種「大鷲」の性状

(蚕試：養蚕経営部)

1. 背景とねらい

本県の飼育環境に適応し、優良繭の低コスト生産に向く蚕品種の選出を進めてきたところ、春蚕用の新蚕品種「大鷲」は、収繭量が多く繭糸質も良好な超多糸量系品種であることが明らかになったので、本品種の性状と飼育取り扱い上の留意点を示し指導上の参考に供する。

2. 技術内容

(1) 品種の来歴

本品種は、農林水産省蚕糸試験場が春蚕用として育成した日中一代交雑二化性の白繭種で、品種名を日150号×中150号(愛称：大鷲)と称し、昭和62年3月に指定された。

(2) 品種の特性

「大鷲」は従来の普通蚕品種に比べると、食桑が極めて活発で虫体も大型であり、繭重、繭層重は8～11%重く、繭糸長は普通品種の水準を大きく超える長さであり、生糸量歩合、繭糸量とも良好である。

(3) 飼育・上簇上の留意点

ア. 本品種は桑育用の品種であり、稚蚕、壮蚕とも桑付け当初から食桑行動は極めて活発であり、桑不足にならないよう注意する。

イ. 特に5齢期に桑不足にすると葉脈、葉柄も食下するほど食欲旺盛であり、努めて薄飼にして良桑を飽食させる。

ウ. 繭糸長は従来の品種に比べ抜群に長いので簇中環境の良化に特に努める。

(4) 繭生産効率と経済性

「大鷲」の繭生産効率と経済性は、普通蚕品種に比べ繭重が重く、1万頭当たり収繭量で6%優った。また新梢100Kg当たり収繭量で3%、繭販売額では13%上回った。

3. 指導上の留意事項

本品種は従来の品種より繭糸長が長く吐糸時間もやや長いので、上簇後4日間は通風換気・排尿処理を励行し、解じょ率の向上に努める。

4. 参考文献・資料

(1) 農水省農蚕園芸局(1987)：蚕の新品種 技術資料113号

(2) 大井秀夫(1987)：蚕糸科学と技術(26)、7、44～47

5. 試験成績の概要

表1. 飼育成績 (1989. 春蚕期)

蚕品種	飼育経過 1~3齢 (日時)	飼育経過 4~5齢 (日時)	化蛹 歩合 (%)	対1万頭 収繭量 (Kg)	繭重 (g)	繭層重 (cg)	繭層 歩合 (%)
大鷲	12.00	13.06	92.1	18.9	2.06	53.6	26.0
翔萌	12.00	13.06	95.1	20.2	2.12	52.3	24.7
対照	12.23	13.03	95.2	17.8	1.90	48.3	25.4

表2. 繭糸質成績 (1989. 春蚕期)

蚕品種	生糸量 歩合 (%)	繭糸長 (m)	繭糸量 (cg)	解じょ率 (%)	繭糸 織度 (d)	小節 (点)	繭格 (等格)
大鷲	20.77	1,544	42.9	64	2.53	96.00	優
翔萌	18.98	1,146	35.5	62	2.83	95.50	2
対照	19.29	1,056	35.9	79	3.10	95.00	2

表3. 繭生産効率と経済性 (1989. 春蚕期)

蚕品種	繭単価 (円/Kg)	1万頭当たり 繭販売額 (円)	新梢100Kg当たり 収繭量 (Kg)	新梢100Kg当たり 繭販売額 (円)
大鷲	3,015 (110)	56,983 (116)	5.36 (103)	16,160 (113)
対照	2,750 (100)	48,950 (100)	5.20 (100)	14,300 (100)

()内の数字は指数

対照品種：朝1号・日1号×東1号・海1号

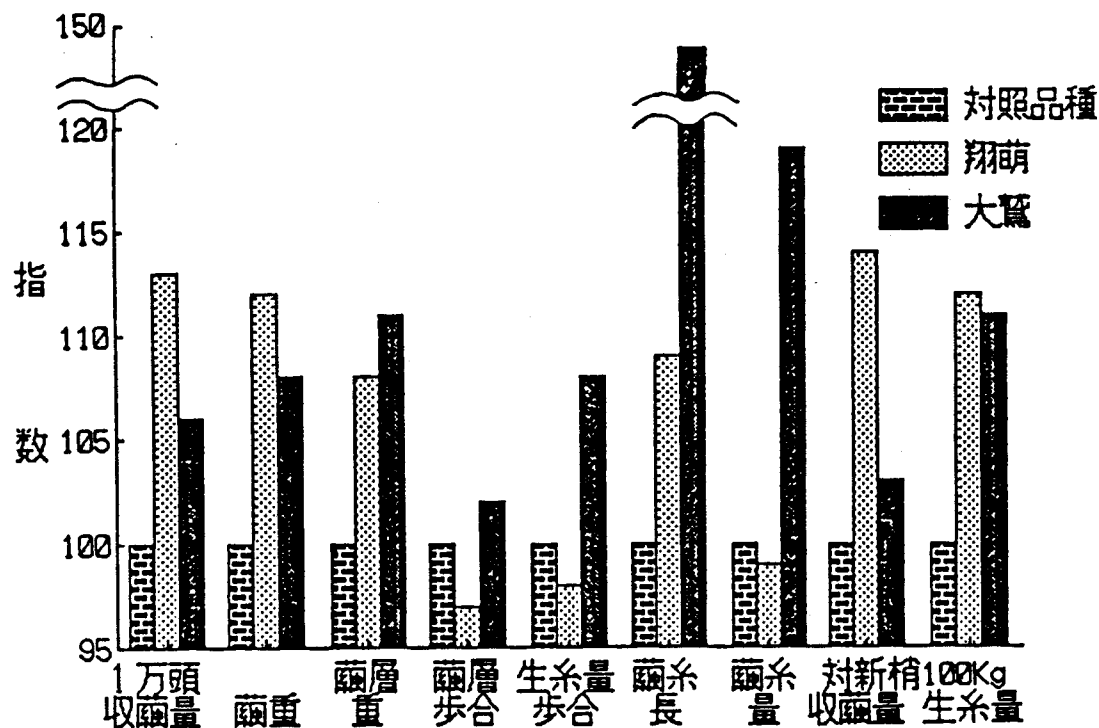


図1 大鷲の生産性形質
(対照品種：朝1号・日1号×東1号・海1号を100とした)